

滋賀の縁創造実践センターは、平成26年9月、任意団体として発足。5年計画だったため、平成30年度末に、いったん解散。平成31年4月に滋賀県社会福祉協議会が事業を引き継ぎ、新たな縁創造実践センターが始動。センターが目指してきたことは「誰もがあめでとうと誕生を祝福され、ありがとうと看取られる地域づくり」だそうです。



滋賀県社会福祉協議会 谷口事務局長

取組みとしては、

- ★「フリースペース」特別養護老人ホーム等を活用した支援を要する子どもの夜の居場所作り
- ★「遊べる・学べる淡海子ども食堂」(128ヶ所)住民同士がつながり、一人ぼっちを作らない
- ★「わくわくお仕事体験」養護施設の子どものための社会の架け橋事業等
- ★「甲賀・湖南ひきこもり支援く奏」引きこもりの人や、その家族が孤立しない支援
孤立、引きこもり、早期離職の解消等、地域で気づいた課題に対して、住民が主体となり課題解決に向けて活動しているという説明を受けました。

建物の中には様々な介護用品、福祉用具が揃えられ、誰でも見学できます。身体の状態に合わせたものや、介護者の負担を軽減する自動処理装置の付いたポータブルトイレ。また、手足の力に応じて使用できるシルバーカーや歩行器、自分の力で食事が摂れるよう工夫された箸、スプーン、食器類など、アイデア満載のものばかりでした。

ご高齢の方や身体の不自由な方、それぞれに合った福祉用具の活用が、いかに重要なのか。その人の自立を助ける福祉用具の活用は、人生の幸福度までも左右するものなのだと、改めて思いました。これほど多くの選択肢がある事にも初めて気が付きました。



GPSが埋め込まれた靴の説明を受けている



福祉用具の展示棟で、職員の方からていねいな説明を受けました



使いやすく工夫された箸やスプーン、食器類